

2026 年 08 月 18 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【ジャクソンホール会議】

今年（2026 年）の「お盆休み」は、一般的に、8 月 13 日（木）から 8 月 16 日（日）までの 4 日間となっています。

今日は 8 月 18 日（火）だから、すでに「お盆休み明け」で、仕事に戻っている人も多いことでしょう。

少々気が早いのですが、今年の「夏休み相場」を振り返ると、7 月 31 日（金）に、日本と米国の両政府が、円買いの協調介入を実施したことが、ビッグ・ニュースだった。

この協調介入は、8 月 3 日（月）に、日本の財務省が、米国財務省と協調して 7 月 31 日に円買い介入を実施した旨、と発表している。

この発表の時点で、今後、更なる協調介入を実施することも躊躇しない、と述べている。

+++++

この日米の協調介入で、ドル／円は、一時、155 円台の安値を付けたが、その後は、反発上昇している。

今後、日米の円買い協調介入が実施されなければ、当面の下値は直近の安値 155 円台と考えて良いのだろう。

もし協調介入が今後なく、米ドル／円が反発して上昇していく場合、当面の天井は今回の協調介入のポイント近辺の 164 円台と見て良い。

再び日米の協調介入があった場合はどうか？

たとえば 159 円台の水準から再び日米が円買い協調介入をした場合、米ドル／円は 152 円程度まで下落する可能性がある、と考えます。

さらに円高が進み 152 円のラインを下に抜けると、150 円付近まで円高が進行する可能性も否定できない、と考えます。

+++++

この日米の協調介入を除けば、今年の夏休み相場は、概して「穏やかな印象」だ。

+++++

この時期になって、気になるのが「ジャクソンホール会議」。

「ジャクソンホール会議」とは、米国のカンザスシティ連邦準備銀行が、ワイオミング州のジャクソンホールで、毎年夏に開く金融・経済シンポジウムのこと。

過去の例では、2010 年 8 月に、当時のバーナンキ FRB 議長が、量的金融緩和第 2 弾（QE2）に踏み切ることを示唆する講演を行い、金融市場に影響を与えた。

今年（2026 年）の「ジャクソンホール会議」は、8 月 27～29 日に予定されている。

+++++

この「ジャクソンホール会議」で、今年の 9 月以降の FRB の姿勢が明らかになる可能性も否定できないので、大いに注目している。

+++++

+++++

（2026 年 08 月 18 日東京時間 10：00 記述）